

2024（令和6）年度事業報告書

（2024（令和6）年4月1日～2025（令和7）年3月31日）

特定非営利活動法人越谷らるご

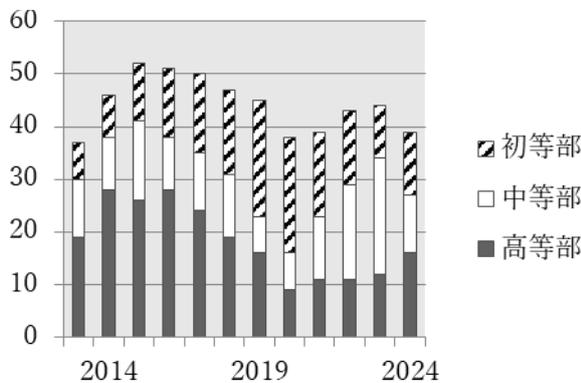
はじめに

定款に記載された目的および事業の内容を達成するため、事業計画に沿って下記の事業を通常通り実施した。

1 事業の成果

1) フリースクール事業

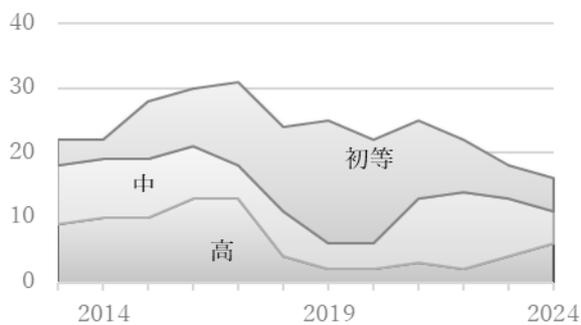
(ウ) 年度末の在籍者



2024年度は、年間を通して40名弱で活動し、昨年度まで微増傾向にあった在籍者数は、4年ぶりに減少し40名を割っている。

在籍の内訳は上のグラフのとおりで、一番多いのは高等部以上となっている。2025年度は初等部の人数が一番少なくなる見込みである。

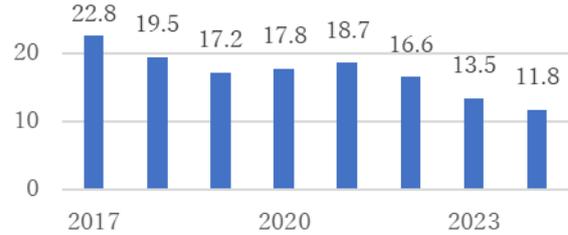
(ウ) 「いつでもコース」の人数



コースの人数については、「いつでもコース」の人数は16名で、3年連続で減少傾向にある。在籍者の半数以上はときどきコース(月4日コース)

に在籍している。本人や保護者がりんごの木に求めるものや、その利用の仕方に変化がみられる。

(ウ) 1日当たりの来所状況



上のグラフの通り、日々の平均来所数は過去3年間減少傾向にある。毎日コースの人数が減ったことで、日常的にいるメンバーの人数は少なくなり、イベントや特別活動などの日を選んで参加するメンバーが増えた。

一方、日常的に来ているメンバーの多くは、それぞれが楽しみを見つけ、日々思い思いに過ごしている。りんごの木が大事にしている「どう過ごすか自分で決める」「なにをしても、しなくてもいい」というポイントが伝わっているメンバーは多いと感じる。

フリースクールの活動は、例年通り特別活動、ひるめし食堂、お誕生日会などを実施することができた。月に1,2回おやつ作りの日を設け、子どもたちにリクエストを聞き、パフェ作りやケーキ作りなどをした。また夏には海に、冬はスキーに2泊3日で行くことができた。お泊り会も3回実施した。

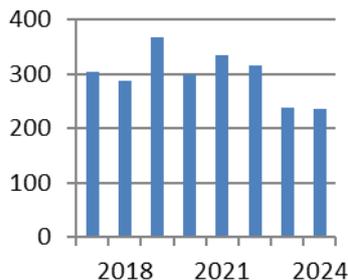
保護者との関わり

保護者会は1回、保護者面談については夏休み、春休みを中心にオンラインでの面談を含め、実施した。イベント案内やお知らせ等はりんごの木公式LINEにて、随時連絡をした。

実習生等の受け入れ

- ・文教大学学生心理実習として3名受け入れた。
- ・上智大学調査研究チームの視察を受け入れた。
- ・越ヶ谷高校総探インタビューを受けた
- ・大妻女子大学学生4名のインタビューを受けた。

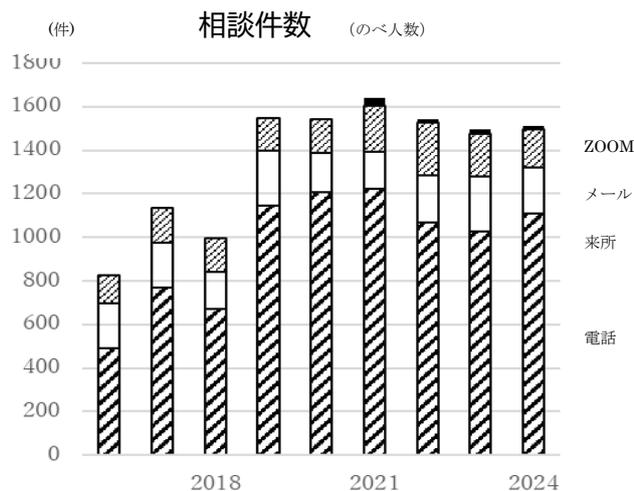
新規相談件数



2) 子どもとの関係や対人関係に悩む人の 相談に応じ、互助活動を支援する事業

「埼玉県ひきこもり相談サポートセンター」

相談活動として、埼玉県の委託事業「埼玉県ひきこもり相談サポートセンター」でひきこもりに関わる相談を週5日、年間を通して受けた。相談件数は下記のとおりであった。



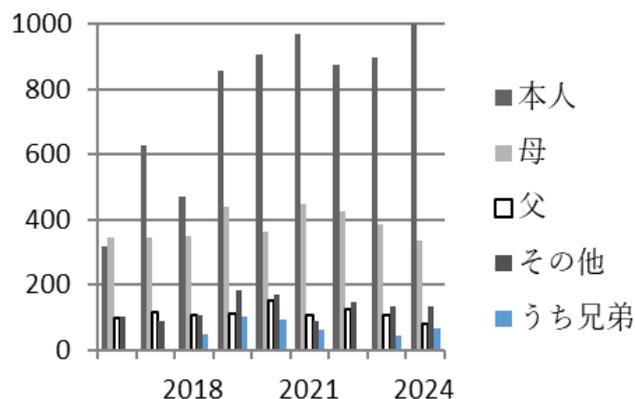
※オンライン相談は2021年度から。

相談の傾向は大きく変わらず、ここ数年1500件程度で推移している。新規相談(237件)も左上のように前年度とほぼ同じであった。

相談は多くある時期とそうでない時期に差があった。相談するというタイミングはなかなか図れないものだが、その時々、社会的状況に左右されることを特に感じた。

相談された方は2019年以降、ご本人が圧倒的に多く、そして母親、父親と続いている。相談において、引きこもっているご本人の気持ちを否定的にとらえず、継続しての関わりを大切にしている結果だと考えられる。

(A) 相談された方 (のべ人数)



相談の目的の多くは、これまでと同様にただ話を聞いてほしい、不安を聞いてほしいというものだった。何か具体的なアドバイスを求める、情報を求めるというものではなく、受けとめてほしい、分かってほしいという傾向に変わりはない。不安、焦り、寂しさ等の思いをしっかりと受けとめ、丁寧に受けることに努めた。

当期は電話設備をリニューアルした。ヘッドセットや操作等で当初は慣れない部分もあったが、新たな設備を活かして、負担少なく受けられるようになった。また相談員の体制は非常勤中心ではあるが、個々の状況や相談が多い時間等に合わせ、柔軟に体制を組むことができた。

親の会

年度を通じて8回実施した。参加者が少ない回があったことやスタッフ体制等を鑑み、10月より、親の会はコルの実施月はお休みにした。

コル～発達障害とともに生きる会

発達障害周辺の方（家族やご本人）を対象に、交流や情報交換の場として、年4回実施した。10月より、コルを年3回第1日曜日に実施することとした。

ほっとりんご（20歳以上の人の居場所）

安定的に6名～10名くらいの参加者がいたことから、毎月ほっとりんごの活動を楽しみにしている方々がいることが実感できた。大宮や春日部に現地集合しての散歩の企画や、カラオケの企画が好評だった。

また女性が安心して参加できるための「女子会」を年3回実施し、メンバーも定着した。ご本人向けの居場所検索サイト「ひきプラ」からも引き続き利用もあった。

3) 生涯学習にかかわる事業

「わくわく体験プロジェクト」

地域やNPO、越谷市が協働して、保護者向けに不登校体験談を聞く会等を3回実施した。

4) 人権擁護の推進と福祉の増進に

かかわる事業(自立援助ホーム)

今期は日常的に宿直できるスタッフが3名体制でスタートした。10月に1名が退職し、しばらくは厳しかったが、1月には1名スタッフが常勤として入職し、また年度末に新たな常勤スタッフが決まり、運営体制が安定する方向にある。

今期は高校や大学に在学する入居者が多くいて、学校とのやりとりも多く、中退するケースもあったため、本人、学校、児童相談所との関わりで難しい部分もあった。

自立援助ホーム利用の年齢上限が撤廃されたことから、ゆらいでの利用上限について検討した結果、原則20歳までとし、それ以上の利用は面談しながら個々の状況に応じて決めていくこと

とした。また自立への手がかりとしてステップハウス（入居者の一人暮らし体験）について検討し、希望者が出てきた場合に備えた。

研修や会議については可能な限り参加できた。今期から大学教員にスーパーバイザーを依頼し、4回内部研修を実施し、有意義な時間をもてた。

運営委員会は委員の不足等により、開催が困難となったため休会とし、理事会がその役割を当面代行することとした。

退居者については、電話やメール、来訪や訪問などを通して、年間306件の支援を実施した。前年度の退去者についての伴走支援を実施する等、個々に応じてきめ細かく実施するように努めた。

5) 活動のなかで得られた子どもの教育と生涯学習についての意見を広めるための事業(広報事業)

「越谷らるご通信」は、月1回紙ベースとPDFで発行し、活動の案内や報告等を行った。

また活動報告や告知はホームページでも実施した。

3月にHPが外部から乗っ取られてしまうことがあったが、サーバー会社のサポートもあり、無事復旧することができた。その後外部からの侵入が簡単にはできなくなるよう、セキュリティをより強固にした。

外部委員・会議等の参加（オンライン含む）

- ・埼玉県不登校児童生徒支援のための官民連携会議
- ・越谷市保健所ひきこもり連絡会
- ・東京都学校・フリースクール等協議会
- ・さいたま市教育委員会学校FS等連絡協議会
- ・越谷市青少年問題協議会
- ・埼玉県ひきこもり支援連絡会議

講師活動

- ・青少年育成埼玉県民会議総会研修会
- ・所沢市青少年育成推進委員協議会研修会
- ・埼玉県立大学保健医療福祉学会シンポジウム
- ・春日部市役所民生委員講演会

2 事業の実施にかかわる事項

特定非営利活動にかかわる事業

事業名	事業内容	実施場所	支出額
1) フリースクール事業	月～金曜日 10:00～17:00 (木曜日は 12:00～17:00) に子どもの居場所、育ちの場を開き、活動の支援や相談、見学・体験入会などを行った。 2024年度は 40 名でスタートし、5 名が新入会し、11 名が年度中に退会した。 (2025 年 3 月末の在籍：34 名。)	本法人の事業所他	9,579 (千円) 以下同様
2) 子どもとの関係や対人関係に悩む人の相談に応じ、互助活動を支援する事業	親の会 年 11 回予定通り実施した (のべ参加者数：76 名)。	本法人の事業所	12,647
	埼玉県ひきこもり相談サポートセンター (埼玉県委託事業) 月・水～土曜日 10:00～18:00 にひきこもり等に関する相談を電話・来所・メール、オンラインにて受けた(のべ相談者数：1511 名)。	本法人の事業所	
	20 歳以上の居場所 ほっとりんご(同上委託事業) 20 歳以上の人の居場所として、女子会 3 回を含む 24 回を予定通り開催した。 (のべ参加者数：130 名)	本法人の事業所	
	コル～発達障害とともに生きる会 年 4 回、互助的な会を開催した(のべ参加者数：21 名)。	本法人の事業所	
3) 生涯学習にかかわる事業	行政 (越谷市) と地域との協働事業「わくわく体験プロジェクト」 不登校の体験談を聞く会など、保護者向けの会を 3 回実施し、年度末に報告書を作成した(のべ参加者数：69 名 ※2023…70 名 2022…58 名、2021…36 名)	中央市民会館	1
4) 人権擁護の推進と福祉の増進に関わる事業	自立援助ホームの活動 家庭での生活に困難を抱える若者の自立支援を行った。新たに 4 名の入居があり、2 名の退居があった。退居者支援として、退居者の来訪、相談、訪問など (306 件)を行った。	本法人の事業所	33,581
5) 活動の中で得られた子どもの教育と生涯学習についての意見を広めるための事業	『越谷らるご通信』の発行 毎月、会員及び関心をもつ方を対象に、11 回メールによる発信を含め、計 2500 部ほどを発行し、活動で得られた知見を社会に発信した。	本法人の事業所	182
	インターネットによる発信 不特定多数の方を対象に、ホームページ、フェイスブックによる発信・更新および不正乗っ取りを受けてのセキュリティ強化を行った。	本法人の事業所	
	その他 ・行政が主催する 6 つの会議に委員として参加した (書面開催含む)。 ・行政機関や大学 4 カ所で研修・講演会、シンポジウムで講師等を務めた。	本法人の事業所の他依頼先	
管理部門	法人事務、運営管理等	本法人事業所	2,287

3 運営管理に関する事項

- ・2025 年 3 月末現在、正会員 54 名(55 名)、賛助会員 46 名(47 名)であった。(括弧内は 2024 年 3 月)
- ・情報管理が徹底されるよう、毎月事務局会議で個人情報の管理状況を確認した。
- ・電話相談等を受けやすくするため、電話システム(主装置・電話機)を刷新した。
- ・広く支援を受けるための取り組みとして、「フリースクールりんごの木子どもサポート基金 (以下、サポート基金)」「若者自立支援基金」、「一般寄付」の 3 種の寄付メニューを継続した。
サポート基金については、オンライン寄付サイト Give One を活用し、「高山弘子基金」も含め様々な方から継続して支援をいただき、助成金として受け取ることができた。
- ・日本版 DBS 法の施行にあわせて、犯罪歴等がない自己申告書を作成し、全職員の提出を受けた。また研修・交流として、性暴力危機管理委員会を 1 度開催した。
- ・当該年度の譲渡資産、資産の貸付、役務の提供に関しては該当なし。
- ・給与を得た職員の総数 16 名。左記職員に対する給与総額 33,528,058 円